

# 日本小児血液・がん学会 第7回理事会議事録

日 時：平成25年2月15日（金） 12:30～16:00  
場 所：アブラックペアレンツハウス浅草橋 2F

出席者：石井 榮一（理事長）

越永従道（副理事長）、足立壮一、池田 均、今泉益栄、菊地 陽、工藤寿子、  
黒岩 実、嶋 緑倫、滝 智彦、野崎美和子、細井 創、真部 淳、米田光宏（以上理事）  
伊藤悦朗、福澤正洋（以上監事）

田口智章（第55回学術集会会長）

小田 慈（第56回学術集会会長）

杉田完爾（第57回学術集会会長）

七野浩之（オブザーバー）

欠席者：小原 明、中澤温子（以上理事）

水谷修紀（オブザーバー）

原 純一（オブザーバー）

まず議事録署名人として滝先生と黒岩先生にお願いすることとなった。

司会：石井理事長

## I 報告事項

### 1. 事務局移転について

七野先生より資料に沿って下記の通り報告された。

・HPに今後の更新に関しては依頼する先生は学会事務局へ連絡をし、学会事務局がサーバー担当者へ連絡をする。

→学会事務局がHPのアップを行った方がすぐ行うことができるのではないかと意見され、学会支援機構に確認することとなった。

・学会員向けに5月1日から実務が学会支援機構へと移行を行っていることを報告する必要がある。

→早急に理事長名にて全会員へ連絡をすることが決定した。

・現在定款上にて主たる事務所が現在台東区浅草橋となっているが、副事務所として学会支援機構としても問題ないのではないかと意見が出され、実務は動かして、定款変更は学術集会の総会の際でも特に問題がないことが確認された。

・財務委員会としては新たな金額がかかるとは認識をしていない。

・各委員会がどのような作業を行っているか、引き継ぎについて準備を行っていく。

なお、第55回学術集会に関しては学会の保持しているシステムを使用するかどうかについては今後検討していくこととなった。

### 2. 庶務報告

現在の会員数等について報告された。

新入会者については承認された。なお、入会希望者で返金を希望されていた先生については、定款で「既に納入した会費およびその他の抛出金品は変換しない」と記載があるため、返金はできないことが確認された。

### 3. 前回理事会・評議員会・総会議事録の確認

議事録について確認され臨床研究審査委員会報告の「2時審査」の漢字が異なっている為、漢字を変

更して承認となった。今後議事録署名人に署名をお願いすることとなった。

4. オフィシャルジャーナルについて

PBCを official journal とすることが承認された。

しかしながら PBC は SIOP の official journal なので、今後会員が SIOP の会員になれば、official journal を購読する会員が少なくなるのではないかという意見が出され、今後の検討課題となった。

IJH を official journal 化するという事を学会として働きかけをする必要がある。

SIOP 小委員会を作るなどして事務局同士でコンタクトを取って今後行っていきたい。

5. 常設委員会報告

1) 規約委員会(野崎委員長)

旅費ならびにアルバイト規定について野崎先生より報告された。

- ・旅費規程の第一条の「特殊の任務または特別な事情のある場合は…」という箇所には天災なども含まれる。

- ・鉄道運賃の内容について記載がないため交通費申請書のところにエコノミーに限ると記載する。

今後規程の他に細則を作成することとなった。

アルバイト雇用規約については本日の日付で施行することとなった。

2) 編集委員会 (嶋委員長)

- ・地方会・研究会などの二次抄録については一頁 5,000 円を負担して頂くことが本理事会にて決定。

今後投稿・執筆規定を変更することとなった。

- ・投稿システムについては年間 50 本という事は学術集会特集号を行うのであれば、50 本は行くが、特集号を今後継続的に行わない場合は年間 50 本いかない場合もあるため、今後要検討していく。

- ・冊子体は必要かどうかについては今後も委員会内にて検討を行う。

3) 保険診療委員会

- ・新たに公知申請された薬について今後 HP に掲載する。

- ・RS ウィルスに対する～の要望依頼については既に厚労省に理事長名にて提出を行った。

- ・三月上旬に委員会を開催し要望について要検討をすることとなった。

- ・アンケート調査については理事会に確認する必要があることが確認された。

4) 専門医制度委員会(菊地委員長)

- ・試験作成委員については受諾頂いた先生以外の先生にも領域のバランスが取れるよう声掛けを行う。  
→理事会内にて今泉先生、細井先生の受諾が確認された。

- ・現在指導医が今後移動または定年で認定施設ではなくなる施設ができるため、専門医・指導医としてなれない可能性があるという問い合わせが多々あるため、今後委員会として要検討していくこととなった。

→専門医から指導医になるためには 5 年かかるため。

→例) 一度認めた施設について暫定指導医は非常勤でも暫定指導医または指導医が勤務していれば良い。など

- ・緩和ケアについては現在専門医制度委員会が行っているが、今後は学術・教育委員会と協力を行っていくべきではないとの意見が出され、今後検討していくこととなった。

5) 診療ガイドライン委員会

- ・学術集会中に改訂版の責任者説明を開催した。

- ・現在作業が遅れているが、執筆について今後各執筆者に連絡を行う予定。

- ・脳腫瘍がないが、脳神経化学会で出す予定なので小児血液・がん学会より出すのは難しいという事が再度確認された。

- 6) 倫理委員会・利益相反委員会（工藤委員長・滝委員長）
- ・COIについて開示を行うことを今後義務付ける。
  - ・小児がん学会で作成された指針、規程、報告事項及び報告様式を使用し改定することとなった。
  - ・第55回の際には演題の応募時にCOIチェックを行う。
- 7) 臨床研究審査委員会(足立委員長)
- ・臨床研究審査28については評議員会の際に「臨床試験を開始している」という事が報告されたが、委員その後委員長が確認をしたところ、臨床試験は開始されていないことが確認された。二次審査についてははまだ事務局では確認ができていない。
  - ・今後の審査方法としては一次審査をワーキングで行い、二次審査は全委員で確認し、承認をすることとなった。
  - ・学術集会中に行った議事録については早急に理事会メンバーへ連絡を行うこととなった。
- 8) 学術教育委員会（細井委員長）
- ・応募方法内の別冊についてはコピーではなくCDに入れて送付に変更。
6. 疾患委員会
- 1) 再生不良性貧血・MDS委員会(工藤担当理事)
- ・中央診断システムは学会独自のものがあり、検体システムは今後システムを構築していくという流れだが、現在システムは一本化していこうとする中システムが2本立っているようだが、動き出していないため、止めることができない。
  - ・予算が足りないので、予算について今後再度検討をして頂きたい。（今後学会の事業として行っていくなど）
  - ・今後JCCGと今後連絡をし、連携を取っていくべきではないか。
  - ・後世に残した方が良いのではないかと意見が出され、今後検討していくこととなった。
  - ・臨床推進委員会が既に立ち上がっているため、JCCGが立ち上がってから始動することが確認された。
- 2) 止血・血栓委員会（嶋担当理事）
- ・委員長が嶋先生から瀧正志先生に変更となった。そのため血友病ネットワークの事務局を聖マリアンナ医科大学小児科に移動となった。
  - ・委員会名が「血友病委員会」から「止血・血栓委員会」へと変更しているため小児の血栓症・出血の実態の把握等について研究を行っていく。
  - ・国際血友病専門施設があるため、そういう施設と連携を取って行うべきであると提言され、今後検討していくこととなった。
- 3) 白血病・リンパ腫委員会（滝担当理事）
- ・福島の菊田先生より依頼された福島関連については今後提案書を提出いただき、再度検討することとなった。
  - 2月28日に委員会を行いその際に菊田先生に意向を伺うこととなった。
7. 第54回学術集会仮報告
- ・例年同様程度収支差額となった。
  - ・3日通して2,090名の参加となった。有料参加の医師は1,000名程度、看護師は500名程度となった。
  - ・企業の共催ルールが厳格になったため、セミナーが集まりにくくなった。（小児の適用外の薬の会社等があるため）
  - ・海外演者のランチョンセミナー開催については外資系は国際ルール（COI）の関係でご参加いただけない方も中にはいらっしゃった。
7. 学術集会準備報告
- 1) 第55回日本小児血液・がん学会

プログラムについて

- ・ミートザエキスパートセッションは朝行うことを検討している。
- ・英語のセッションについて一列は行いたいと検討している
- ・教育セッションはできるだけ横一列で全部聞けるように行う予定
- ・海外演者は5名予定だったが、6名になる予定。
- ・SIOPが香港であるためアジア関係はそういうところに演題募集を行う
- ・共催セミナーは6社。外科は化学療法を行わないため、薬使用の実績がないため若干苦戦を強いられている。

2) 第56回日本小児血液・がん学会

- ・3社にプレゼンをしてもらい、運営会社を決定する。
- ・教育セッションの配置については今年の一列を見てから決定する。
- ・シンポジウムについては若手の方に…
- ・当初運営会社は加藤先生からの3年契約でコングレが56回までとなっていたが、12ランチョンを確保するという条件が不可能とコングレより連絡があったため、コングレと協議し、56回よりプレゼンによって運営会社を決定することとなった。

3) 第57回日本小児血液・がん学会

- ・日程と場所については仮押さえをした。  
富士屋ホテル、常盤ホテル  
井村温泉と石和温泉で行う予定。(シャトル)

II 審議事項

1. 次期理事長・理事・監事選出告示について

公示については5月に出す。(なので書類送付先は学会支援機構)

2. 委員会委員選挙告示について

公示については5月に出す。(なので書類送付先は学会支援機構)

3. 次々期会長選出告示について

選挙管理委員会は特にないので、理事・評議員資格委員会が行うことが確認された。

4. その他

がんの子どもを守る会より事務委託契約満了に伴う覚書について石川事務局長より報告され承認された。

次回の理事会は5月10日12時30分～

以上